

科目名	専門演習 I Seminar I						
科目担当者	斉藤 拓実 SAITO Takumi						
単位数	4	配当年次	2 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 専門科目] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本演習では、現代社会における公法上の問題を、幅広く扱います。具体的なテーマ設定は、参加者の問題関心に沿って行います。文献購読（主として研究論文等を読んで、教員が解説をすること）が中心となります。ただし教員による解説よりも、参加者による報告及びディスカッションを重視します。						
授業の到達目標	本演習を通じて、以下の獲得を目指します。 ①市民として相応しい素養 ②テキストを厳格に読解し、自己の見解を論理的に構成する力 ③高度なコミュニケーション能力						
授業計画・内容	1	ガイダンス			16	報告及び討論⑭（基本的課題の検討）	
	2	報告及び討論①（報告と討論の作法）			17	報告及び討論⑮（基本的課題の検討）	
	3	報告及び討論②（報告と討論の作法）			18	報告及び討論⑯（基本的課題の検討）	
	4	報告及び討論③（報告と討論の作法）			19	報告及び討論⑰（基本的課題の検討）	
	5	報告及び討論④（社会科学と法）			20	報告及び討論⑱（基本的課題の検討）	
	6	報告及び討論⑤（社会科学と法）			21	報告及び討論⑲（基本的課題の検討）	
	7	報告及び討論⑥（社会科学と法）			22	報告及び討論⑳（基本的課題の検討）	
	8	報告及び討論⑦（社会科学と法）			23	報告及び討論㉑（発展的課題の検討）	
	9	報告及び討論⑧（法解釈学と社会科学）			24	報告及び討論㉒（発展的課題の検討）	
	10	報告及び討論⑨（法解釈学と社会科学）			25	報告及び討論㉓（発展的課題の検討）	
	11	報告及び討論⑩（法解釈学と社会科学）			26	報告及び討論㉔（発展的課題の検討）	
	12	報告及び討論⑪（法解釈学と社会科学）			27	報告及び討論㉕（発展的課題の検討）	
	13	報告及び討論⑫（法解釈学と社会科学）			28	報告及び討論㉖（発展的課題の検討）	
	14	報告及び討論⑬（法解釈学と社会科学）			29	報告及び討論㉗（発展的課題の検討）	
	15	前期・総評			30	後期・総評	
授業外学修 (事前学修)	テキストと参考資料に目を通しておくこと、また報告とディスカッションの用意をしておくこと（毎週 4 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)							
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	授業への参加（授業中の発言、事前準備を含む） 報告（事前準備、内容、質疑に対する応答を含む）				50% 50%		①、②、③ ①、②、③
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	適宜指示する。						
参考文献	適宜指示する。						
その他							